

第5学年1組 体育科（保健）学習指導案

令和5年11月10日（金）第5校時 体育館

男子 20名 女子 17名

指導者 さいたま市立沼影小学校教諭 斎藤 雅高（T1）

さいたま市立内谷中学校教諭 山下 広夢（T2）

1 単元名 けがの防止

2 単元について

本単元は、交通事故や学校生活など日常生活の中での事故やけがを取り上げ、けがの起こる原因や防止の方法を理解させることをねらいとしている。けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにし、けがが発生したときに、その症状の悪化を防ぐために速やかに手当ができるようにする必要がある。そのため、本単元では交通事故や身の回りの生活の危険などを取り上げ、けがの起こり方とその防止、さらにけがの悪化を防ぐための簡単な手当などを中心として構成している。

児童は、自分の事故やけがの原因を考えたときに、直接的な原因となる自分の行動に目が向きがちである。そこで、本単元では、心身の状態や周囲の環境条件にも目を向けさせ、考えさせるようにしていきたい。そして、身近なところで起こるけがを取り上げ、手当の方法や注意点について知り、演習を行うことで理解を深め、安全な生活を実践する力を身に付けさせたい。中学校で学習する、交通事故による傷害の発生要因と、その防止や応急手当につなげていきたい。

また、中学校で学習する、訓練用AED等を用いた演習に円滑に接続できるように、命に関わる大きなけがが起きた場合の対応の仕方を考えたり、胸骨圧迫やAEDについての理解を深めたりしていきたい。

3 児童の実態

本学級の児童は、活発で明るく、外遊びが好きな児童と、室内で絵を描いたり読書をしたりすることが好きな児童がいる。また、週に一度のロング昼休みの際にはクラスレクリエーションを行うことが多く、その際には室内で過ごすことが好きな児童も一緒に、鬼ごっこやドッジボールを楽しんで行っている。児童たちは運動や遊びの中で、すり傷や切り傷、突き指、打撲などのけがをすることもある。その際の手当てについては、傷を負った箇所を水で洗ってから養護教諭に診てもらったことが多いので、自分で手当を行う機会は少ない。また、胸骨圧迫やAEDについては、人の命を救うためのものであるという認識はあるものの、その役割や行い方、使い方はあまり知らないのが現状である。

事前に胸骨圧迫やAEDに関するアンケートをとったところ、以下のような結果となった。

		はい	いいえ
1	学校や地域の中で誰かが大きなケガをして倒れていたときに、声をかけられますか。	34	3
2	学校や地域の中で誰かが大きなケガをして倒れていたときに、どうすればよいか知っていますか。	27	10

3	胸骨圧迫を知っていますか。	8	2 9
4	胸骨圧迫がどんなときに必要か知っていますか。	7	3 0
5	胸骨圧迫の方法を知っていますか。	7	3 0
6	「AED」がどんなものか知っていますか。	3 2	5
7	沼影小学校で「AED」が設置されている場所がどこか知っていますか。	3 4	3
8	地域の中で「AED」が設置されている場所がどこか知っていますか。	9	2 8
9	「AED」がどんなときに必要か知っていますか。	2 4	1 3
10	「AED」の使い方を知っていますか。	9	2 8

調査結果によると、一次救命措置が必要な場面で、進んで声をかけることができると回答した児童が9割以上いた。そのような場合にどうすればよいのか知っているという回答した児童も7割以上いたが、約8割の児童が胸骨圧迫がどんなものか、どんなときに必要か、どのように行うのかを知らなかった。AEDについては、約9割の児童がどんなもので、校内の設置場所を知っていると回答したが、AEDがどんな時に必要か知っているという回答した児童は6割強、使い方を知っているという回答した児童は2割強に留まった。これらのことから、もしもの場面に遭遇した際に、積極的に助けようとする姿勢はあるものの、胸骨圧迫やAEDについては、詳しくは知らないという現状がある。

けがの手当では、その重要性を理解して演習を行うことで、対処法を学ばせていく。そして自助・共助の考えに触れ、命に関わる大きなけがが目の前で起きた時を想定し、地域の中学生と一緒に胸骨圧迫やAEDの扱いなどの演習を行う。その体験を通して、実際に人命救助に自分が携わる可能性があり、自分にもできることがあるということ、実感をもって学ばせたい。

4 教師の指導観

本単元は、けがの原因と防止について理解させ、けがを防止するための思考力、判断力、実践力を育てることをねらいとしている。そして、自ら課題を見付け、課題解決し、実践できるように構成している。

「けがの手当」では、状況を速やかに把握し、簡単な処置をしたり、大きなけがの場合には近くの大人に知らせたりすることが大切なことを理解し、簡単なけがの手当を実際に学べるようにし、実践力を養うようにしていく。

命に関わる大きなけがが起きた場合に、自分でもできることがあることや、そのために必要な対処の仕方を学ばせたい。そのために映像を見せたり、リトルアンを使用した演習を行ったりすることで、その場における自分の行動や胸骨圧迫、AEDの使用法について理解を深め、自助・共助に基づく行動ができるようにしていく。

そこで小・中一貫教育の視点から、中学校の保健体育教諭、生徒と連携して授業を実践する。中学校でも心肺蘇生法の授業を行っている経験から、生徒には児童に胸骨圧迫の見本を見せたり、児童実演のサポートをしたりする形で協力してもらい、複数人数での処置や役割分担などの理解を深められるようにする。

5 研究とのかかわり

(1) 研究主題及び目指す児童像

研究主題

9年間を見通した安全教育の推進
～自助・共助の力をはぐくむために～



目指す児童像（高学年）

状況に応じて、的確な判断の下に「自助」ができ、
進んで「共助」ができる児童

(2) 研究主題にせまるための手立て

視点1 的確な判断の下に「自助」を行えるようにする

【手立て①】自分の暮らす地域を題材とした学習及び演習

- ・けがの手当てや胸骨圧迫について、演習を行ったり、けがをしやすい場所やAEDの設置場所などを、自分たちの暮らす学校や地域で確認したりすることで、自助の意識を高められるようにする。

【手立て②】「もしも」を意識した毎時間の振り返り

- ・けがの手当てや防止について「もしも」という視点をもって、具体的に振り返り、実生活の中で実践していこうとする意欲をもたせる。

視点2 進んで「共助」を行えるようにする

【手立て①】ペアやグループでアドバイスし合いながら役割演技や実演をする場の設定

- ・学んだことを仲間と一緒に役割演技や実演をして見合うことで、友達の意見から自分の考えをさらに深めたり、協力し合いながらねらいにせまったりすることができるようにする。

【手立て②】中学生と行う心肺蘇生法の学習

- ・地域に生活する身近な存在である中学生と学ぶことを通して、共助の意識を高められるようにする。

6 単元の目標

- (1) 演習を通して、速やかに手当てすることの大切さを理解し、簡単なけがの手当をすることができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 事故やけがの予防について、自分の行動や周りの環境から見直し、友達の見解を参考に予測し安全に過ごせるよう判断することができるようにする。 (思考力・判断力・表現力)
- (3) 事故やけがの原因を知り、それらを防ぐための安全な行動に気付き、けがをしたときの簡単な手当に関心をもつことができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

7 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがと、その防止について理解している。 ② 大きなけがの対処法や、AED、胸骨圧迫について理解するとともに、簡単な手当の技能を身に付けている。	① けがの防止について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ② けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。	① けがの防止について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ② けがの防止について、資料を見たり、自分の生活を振り返ったりするなど、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。

8 単元の計画

時	ねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態	評価方法等
1	<< 事故やけがの原因 >> ○交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがは、人の行動や環境が関わって発生することを理解できるようになる。 1 資料の絵を見て、学校内外で、どんなときに事故にあいそうになったり、けがをしそうになったりするかを見つける。 2 どうして事故やけががおきるのか、原因を考える。 3 事故やけががおきる原因をまとめる。	①		①	・発言の様子の観察 ・話し合いの様子の観察 ・ワークシート

2	<p>《学校や地域でのけがの防止》</p> <p>○学校や地域で起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えておくことが必要であることを理解できるようにする。</p> <p>1 資料を見て、これから起こる危険を予想する。</p> <p>2 けがを防止するためにはどうすればよかったのかを、人の行動と環境から考える。</p> <p>3 事故やケガの防止についてまとめる。</p>		①	②	
3	<p>《交通事故の防止》</p> <p>○交通事故の防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。</p> <p>1 小学生の事故の原因について自身の経験も踏まえて考える。</p> <p>2 資料から、事故を防ぐためにはどのようなことに気を付ければよいかを考える。</p> <p>3 絵を見て、潜む危険とそれを回避するための対策について、人の行動と環境から考える。</p> <p>4 事故を防ぐ環境整備の工夫について知る。</p> <p>5 交通事故を防止するために必要なことをまとめる。</p>	①	②		<ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子の観察 ・話合いの様子の観察 ・ワークシート
4	<p>《犯罪被害の防止》</p> <p>○犯罪被害の防止には、周囲の安全に気付くこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を整えることが必要であることを理解できるようにする。</p> <p>1 資料を基に、犯罪被害が起こりやすい場所を考える。</p> <p>2 場面絵を比べながら、犯罪が起こりやすい場所の特徴を考える。</p> <p>3 犯罪から身を守るための行動を考える。</p> <p>4 犯罪に巻き込まれないための行動をまとめる。</p>	①		②	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子の観察 ・話合いの様子の観察 ・ワークシート
5	<p>《けがの手当》</p> <p>○けがなどの簡単な手当では、すみやかに行う必要があることを理解できるようにする。また、演習を通して、けがの簡単な手当の方法を理解し、行うことができるようにする。</p> <p>1 けが人が出たときに、何をしたらよいか話し合う。</p>	②	②		<ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子の観察 ・話合いの様子の観察 ・ワークシート

	<p>2 けがをしたときの判断の仕方を調べる。</p> <p>3 自分でできるけがの手当の仕方を知る。</p> <p>4 けがの手当の仕方を練習する。</p> <p>5 けがの手当の仕方をまとめ、感想を発表する。</p> <p>6 ASUKA モデルの DVD を視聴し、心停止についてや、胸骨圧迫・AED について知る。</p>				
⑥	<p>《けがの手当》</p> <p>○けが人が出たときは、落ち着いて観察する、正しく通報するなど、適切に対処する必要があることを理解する。</p> <p>○大きなけがの場合の対処法、AED・心肺蘇生法について理解する。</p> <p>1 けがの対処法について想起する。</p> <p>2 大きなけがの場合の行動について話し合う。</p> <p>3 AED について知り、緊急時の対処法を理解する。</p> <p>4 緊急時の対応を体験する。</p> <p>5 胸骨圧迫を体験する。</p> <p>6 体験を通してもった感想を発表する。</p>	②		②	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子の観察 ・話合いの様子の観察 ・ワークシート

9 本時の学習と指導（6／6時）

(1) ねらい

- ・大きなけがの場合の対処をすることができるようにするとともに、AED・心肺蘇生法について理解したことを、発言したり、行ったりすることができるようにする。 【知識及び技能】
- ・大きなけがの対処法について、演習を通して、進んで取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 資料および準備するもの

- ・リトルアン10台、訓練用AED、ワークシート、掲示資料、プロジェクター、映像資料、スライド資料、カラーコーン18本

(3) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (指導○ 安全教育の視点◇ 評価規準◆)
導入 5分	1 前時で知った心停止・胸骨圧迫・AEDについて想起する。 2 もし誰かが倒れていたらどうするか考える。 ・救命行為の必要性について知る。	◇本時は、倒れている人を見かけた際に、どのような行動をとればよいのかを学習することを知らせ、学習の見通しをもたせる。(T1) ○ゲストティーチャー(さいたま市立内谷中学校教諭、内谷中学校生徒)を紹介する。(T1) ○パワーポイントの資料を用いて確認する。(T1)
展開 35分	3 倒れている人を発見した時の行動を話し合う。 ・声をかける ・通報する ・大人に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「もしも」の時に自分にできることを考えよう。</div> 4 本時の課題を確認する。 5 大きなけが(心肺停止)をした人を発見した時に、どのような対応をすればよいか知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">STEP 1</div> ①安全の確認 ②反応の確認 ③応援要請 ④通報、AED手配 ・全員で確認する。 ・中学生の手本を見る。	○本時で次の状況について考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・放課後校庭で人が倒れている。 ・呼びかけても反応がない。 ・自分たちでは手当できない状態 </div> ○助けを求めることが救命の第1歩であり、大切であることを知らせる。(T1) ○児童に問いかけながら、①～④を引き出す。 ○以下のセリフを言えるように復唱させたり、見本を見せたりする。(T1) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 「周囲は安全です。」 (周りの安全を確認し、倒れている人に近づく) ② 「反応の確認をします。大丈夫ですか？大丈夫ですか？」 (軽く肩を叩きながら、呼びかける) ③ 「人が倒れています！誰か来てください！」 (大きな声で人を呼ぶ。) ④ あなた、119番通報をお願いします。あなたはAEDを持って来て下さい。 (伝える相手を確認しながら言う。) </div>

<ul style="list-style-type: none"> ・中学生と共に班ごとに練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その行為の意図まで、児童に確認する。(T1) ○発見者、通報を頼まれる人、AEDを頼まれる人に分かれて行わせる。(T1) ○台詞、動作、気を付けるところをボードにまとめ、確認しながら行えるようにする。 ○できているかどうかを中学生が確認する。 ○班でお互いに見合っただきたかどうかを確認したり、アドバイスし合ったりすることができているグループを称賛する。(T1・T2) ○指の指し方や視線など細かいところも意識することができている児童を称賛する。(T1・T2)
<p>6 胸骨圧迫の手順について確認し、練習する。</p> <p>STEP 2</p> <p>①呼吸の確認</p> <div data-bbox="574 806 1364 929" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「呼吸の確認をします。1, 2, 3, 4, 5。」 (倒れている人の胸や腹の動きを見ながら、数を数える。) 「普段通りの呼吸無し。」</p> </div> <p>②胸骨圧迫</p> <div data-bbox="247 958 833 1153" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・強く (胸の中心が沈み込むように、肘を曲げずに体重をかけておす。) ・早く (1分間に100～120回) ・休まずに </div> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と共に班ごとに練習する。 ・30回胸骨圧迫をしたら、交代する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生体での胸骨圧迫は絶対に行わないようにさせる。(T2) ○見本を見せながら行う中学生と児童のやり取りの中で、気を付ける部分を押さえる。 ○前述したボードをもとに、適切に実践できるようにする。(T2) ○出来栄を中学生が確認する。 ○班でお互いに見合っただきたかどうかを確認したり、アドバイスし合ったりすることができているグループを称賛する。(T1・T2) ◇グループ内で回数を数えるなど、協力して行うことを通して、共助の意識をもつことができるようにする。 ◆友達と協力しながら、胸骨圧迫の練習に進んで取り組もうとしている。(行動観察)【態】
<p>7 倒れている人を発見してから、胸骨圧迫を行うまでの流れを、通して練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習の成果を生かして、STEP 1とSTEP 2をスムーズにつなげて行うように伝える。 ◆大きなけがの場合の対処や心肺蘇生法(胸骨圧迫)ができる(行動観察)【技】
<p>8 AEDの目的や機能について知る。</p> <p>STEP 3</p> <p>AEDの使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体でAEDの目的や機能、使用方法、校内設置場所を確認する。(T2) ○AEDが地域や社会にもあることを知らせ

	<ul style="list-style-type: none"> ・電源を入れる ・指示に従って操作する ・パッドの装着、コネクター接続 ・心電図解析 ・通電前の安全確認 ・通電 ・心肺蘇生法継続 	<p>たり、学習した内容を社会と結びつけたりし、学校外での緊急時においても自分たちに行けると気付かせる。(T2)</p> <p>○練習用AEDを用いて中学生が実演して見せる。尚、AEDを使用するまでの一次救命処置を小学生に行わせる。(T2)</p>
<p>整理 5 分</p>	<p>8 本時の学習をふりかえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと ・感じたこと、考えたこと ・自分ができること </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感想をグループで伝え合う。 ・教師の話を聴く。 	<p>○中学生と一緒にグループで感想を伝え合い、今日学んだことをお互いに確かめ合う。</p> <p>◇「救命サポーターアプリ」についてのチラシを本日配ることを伝え、学校で学んだ内容と家庭との連携を図る。(T1)</p> <p>◇小学生は、スキルの習得よりも命の大切さ、共助の精神についての理解が重要であることを伝える。(T1)</p> <p>○中学生が実際に人の命を救った話や、中学校でも段階的に学習していくことなどを知らせ、学んだことを自分のこととして捉え、今後の展望がもてるようにする。(T2)</p> <p>◆大きなけがの場合に対処をすることができ、AED・心肺蘇生法について理解したことを、発言している。(発言)【知・技】</p>



けがの防止



学習を振り返り、分かったことや、これから自分ができることを考えよう。

日付	めあて	振り返り（分かったこと、自分ができること）
/	事故やけがは、どのようなことが原因で起こるのかを考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	学校や地域でのけがは、どのようにすれば防止できるのか考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	交通事故は、どのようにすれば防止できるのか考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	犯罪被害は、どのようにすれば防止できるのか考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	けがをしてしまったときには、どのようにすればよいのかを考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
/	もしも、大きなけがをして倒れている人を見かけたら、自分に何ができるのかを考えよう。	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>